

チモシー「クンプウ」の奨励品種への編入

(畜試、草地部)

チモシー奨励品種

「クンプウ」

1. 来歴

北海道在来日高系、北海道在来北見系、米国から導入したClairの3材料から選抜基礎集団を養成し、熟期を主体に選抜・育成された。北見農業試験場で育成。昭和55年にチモシー農林4号として農林登録された。OECD登録品種である。

2. 特性の概要

- 1) 畜試の成績では、出穂期は6月3日、開花始期が6月16日と熟期が早く、早生品種のノサップと比較しても約2週間早く、本県では極早生品種に位置づけられる。
- 2) 草型は直立型で茎は太い。止葉直下の葉は短く、穂は太くて短い。3番草の収量が高く、刈取り後の追肥が有効である。
- 3) 耐寒性は十分であるが、耐暑性は弱く、夏枯れがみられる。耐病性では、斑点病にやや弱いという傾向が認められる。

3. 選定の理由

- 1) チモシーの中では出穂期が最も早く、熟期的にオーチャードグラスの晩性品種と従来のチモシーの早生品種の中間に位置づけられ、熟期において際だった特徴が認められる。
- 2) チモシー品種の中では追肥による増収効果が高く、他品種と比べ秋の収量低下が少ない。
- 3) 熟期が早いことから、1番草の刈取り適期幅が拡大されるなど、特に寒冷地における活用が期待される。

4. 適応地域

高標高地

5. 普及上の留意点

- 1) 耐倒伏性は中位であるが、刈遅れると倒伏して飼料価値が低下するので、適期収穫に努める。
- 2) 再生草の生育が他品種に比べて旺盛であるので、刈取り後の追肥をきちんと行う。

6. 参考資料

- 1) 農林水産技術会議事務局、飼料作物の品種解説。(1986)。
- 2) 増谷哲雄・古谷政道他、チモシー新品種「クンプウ」の育成について。北海道立農試集報。45, 101~113 (1980)。

7. 試験成績の概要

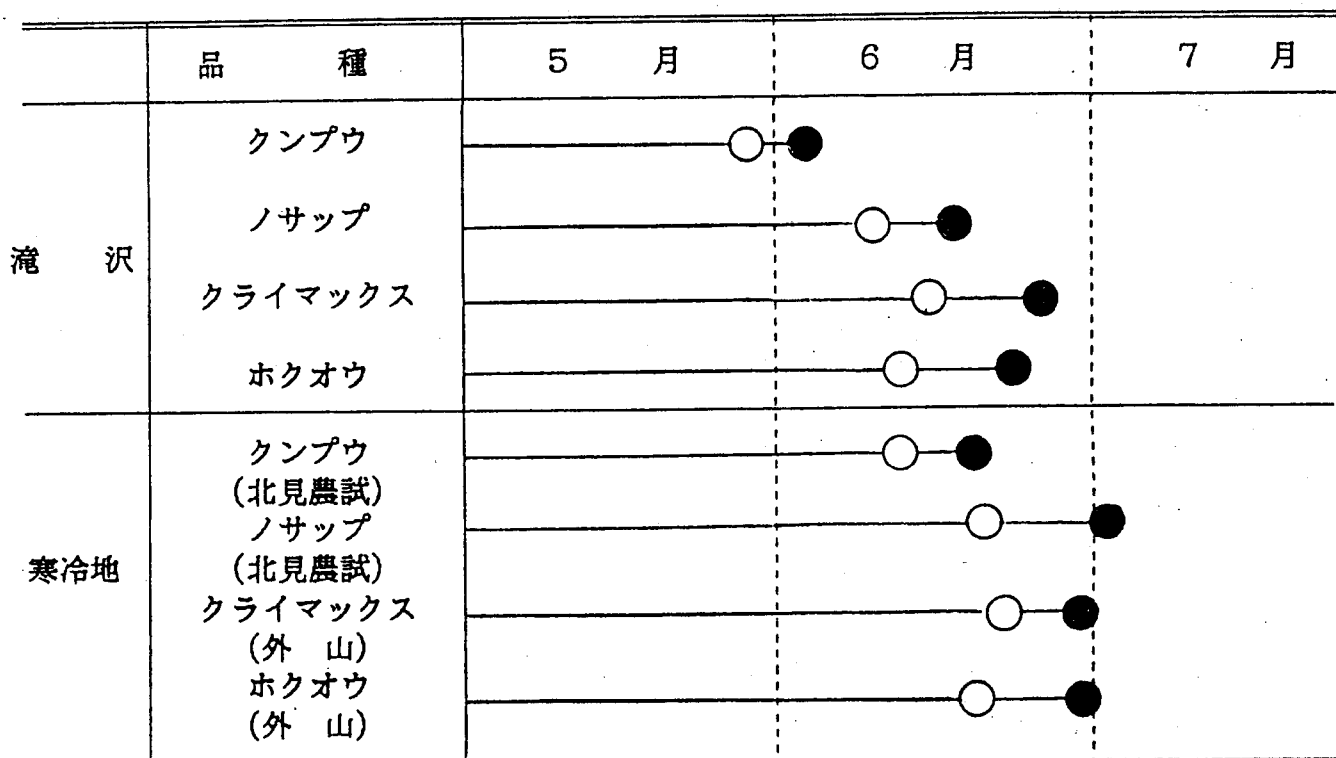


図1 チモシーの出穂特性
○：出穂始
●：出穂期

表1 チモシー・クンプウの番草別生草収量 (Kg/10a)

	1 番 草	2 番 草	3 番 草	合 計
ク 1986	3,390 (135)	1,960 (78)	1,480 (120)	6,830 (109)
ン 1987	2,160 (116)	600 (73)	1,040 (103)	3,800 (103)
プ 1988	2,473 (84)	805 (92)	950 (123)	4,228 (92)
ウ 平均	2,674 (110)	1,122 (80)	1,157 (115)	4,953 (102)
ノ 1986	2,510	2,510	1,230	6,250
サ 1987	1,870	820	1,010	3,700
ッ 1988	2,946	880	772	4,598
プ 平均	2,442	1,403	1,004	4,849

()内はノサップを100とした指数

(岩手畜試)